



子育て情報誌 バナナだより



皮膚トラブルや感染症に気を付けましょう

セミの音が聞こえるようになり、いよいよ夏本番ですね。日本の夏は気温が高く、湿度も高いジメジメした暑さが続きます。夏は野外で活動する機会も多いので、虫に刺されたり植物によるかぶれ等の皮膚トラブルに気を付けていきましょう。また、夏に多い感染症もありますので、対策をしっかりとってこの夏を楽しく過ごしましょう。

咽頭結膜熱(プール熱)

- 症状
発熱・のどの痛み・結膜炎によることが多い。潜伏期間は2～14日。
- 原因
アデノウイルスによる感染症。手指や咳、くしゃみ等の飛沫、感染している子どもの目やにや便を介して感染。
- 対応
症状によっては薬が処方されたり、眼科の診療をすることも。登園には医師の判断が必要。

手足口病

- 症状
夏風邪の一つ。主に手のひらや足の裏、足の甲、口の中などに水疱性の発疹が出る。口の中に出来ると飲食ができないことも。潜伏期間は3～6日。
- 原因
腸の中による感染症。唾液や鼻水、便などを介して感染する。春から夏を中心に初秋まで流行する。
- 対応
1週間程で自然治癒する。口の中の水疱が痛くて食事がとれない場合は口内炎の軟膏等が処方されることも。脱水に注意し、十分な水分補給を。手洗いや消毒を徹底する。

ヘルパンギーナ

- 症状
夏風邪の一つ。高熱が1～3日続く。喉の奥に痛みを伴う1～2mm程の水疱がたくさんできる。2～3日でつぶれるがしみて1週間程痛みが続き、飲食がしにくく脱水症状を起こしやすくなる。潜伏期間は3～6日。
- 原因
ウイルス性咽頭炎の一種で、感染者の咳・鼻水等の飛沫感染や、物に付着したウイルスに触れ、その手で口や鼻に触ることで体内に取り込んでしまう接触感染によって感染する。ウイルスの型がいくつもあり、再感染もする。
- 対応
口内炎の痛みを和らげる薬を処方されることがある。稀に髄膜炎や脳炎等を併発することがあるので、嘔吐したりぐったりしている場合は救急対応を。

ヒトメタニューモウイルス (HMPV)

- 症状
発熱・咳・鼻水など風邪の症状に似ている。潜伏期間は4～6日。悪化するとゼーゼー（ヒューヒュー）といった呼吸になることもある。
- 原因
気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症をひきおこすウイルスの一種。1～3歳の幼児の間で流行することが多く、1回の感染では免疫が獲得出来ず、年齢が上がるにつれて徐々に免疫がつき症状が軽くなる傾向にある。飛沫感染や接触感染で感染する。
- 対応
1週間程度で症状は治まるが、細菌の同時感染（中耳炎や肺炎など）に注意が必要。手洗いやうがいを徹底することが予防になる。